## クールな装いに秘められた熱い走り。現代流ホットハッチの着こなし術。

日本では昔からホットハッチが定番だった。もともと実用的なハッチバックを、軽量化したりエンジンをカリカリにイジって、格上のスポーツカーをカモる。下克上の闘いを挑むのだったら、ベースが実用車然としているほうがカッコいい。

今でこそプレミアムを標榜しがちなユーロ界のホットハッチだが、その原点を忘れずシンプルにさりげなく。Sサンがアプローズと二人三脚で仕上げたゴルフⅦ GTIは、まさにそんな好例だった。

エアロに頼らず、何よりまずは足もとを突き詰める。シャープなスポークで走りを予感させるAGIO SPORT「Precisione LRY」に狙いを定め、敢えて20インチを投入する。KWのバージョン3で限界まで車高を落としてツライチに。かといって、これは大径感ばかりを狙うドレスアップカーではない。KWのバージョン3のきめ細かいセッティング幅に加え、moufのロールセンタースペーサーなどを駆使して、その攻撃的な足もとからすると拍子抜けするほど快適な乗り味を実現し、いざとなれば全開で踏み抜ける状態を保つ。ストリートを流す際には、純正の雰囲気を活かしたままインストールしたオーディオが役に立つし、いざ走りに集中するのなら、ホイールの奥に潜むストップテックのブレーキシステムや、または快音を奏でるアクラポヴィッチ・スリップオンラインが縁の下の力持ちとなる。

エクステリアは純正を踏襲しているかと思いきや、ナンバースムージングやガーニッシュ塗装、レンズ類のブラックスモーク塗装など、小技が随所に見られる。総じて純正の雰囲気をちょっぴり引き立てつつ、日常（利便性や快適性）と非日常（痛快な走り）を両立させる。過去にさんざん走ってイジって、時に失敗もしてきた。そんな人が最後に行き着くような、実に玄人好みのホットハッチである。

# VW GOLF VII GTI

**OWNER** >> Mr.S（Sさん）
**CALL** >> APPLAUSE（アプローズ）
TEL:03-3330-2355 http://applause-audio.com
**PHOTO** >> RYOTA SATO（佐藤亮太／サッカス）
**TEXT** >> DAICHI NAKAMIGAWA（中三川大地）

**VW GOLF Ⅶ GTI 2017**
**WHEEL** AGIO SPORT>>Precisione LRY F/R:20×9.5 Finish:Blushed Clear Anodized ,Ti Forged>>Stud Bolt
**TIRE** NITTO>>NEO Tech GEN F&R:225/30R20
**SUSPENSION** KW>>Ver.3 Adjustable Coilover, MOUF.>>Roll Center Spacer
**BRAKE** STOP TECH>>F:Standard Kit R:Sport Kit
**EXHAUST** AKRAPOVIC>>Slip-On Line
**EXTERIOR** APPLAUSE>>Front Bumper License Plate Smoothing, Tail Lamp Black Paint
**INTERIOR** BLACK FOREST INDUSTRIES>>Shift Knob
**AUDIO** CARROZZERIA>>GM-D 7100 Power Amplifier/ ■■■■ ■■■■/■■■■ Tweeter

eS4_82_P116-117.indd 116 2019/07/26 10:55

# 刺激的クリーン

1 KWバージョン3を駆使してツライチに。2 ホイールはAGIO SPORT「PrecisioneLRY」。 敢えて20インチにしたところに美学がある。3 排気系はアクラポヴィッチのスリップオンライン。他の樹脂部品の質感と統一させたソリッドカーボンがいい。4 トランクルームを犠牲にせずウーファーが仕込まれる。5 シフトノブはBFI製。6 Aピラーにさりげなく埋め込まれたトゥイーターも実に高品質だ。



eS4_82_P116-117.indd 117 2019/07/26 10:55